

# 別紙

## 常陸大宮市上下水道料金調定システム構築業務委託

### 機能要件書

#### 記入方法

以下の内容に沿って記入し、提案書に添付して提出すること。

#### 導入可否欄

- A : パッケージシステムにて対応可能
- B : パッケージシステムをカスタマイズすることで対応可能
- C : パッケージシステムにて対応不可

#### カスタマイズ費用

【導入可否欄】にてBの場合、金額(税抜)を記入すること。

#### システムにて対応不可

【導入可否欄】にてCを記載し、対応不可理由を別途資料に作成のこと。

※カスタマイズ費用には、必ず本機能要件書にてカスタマイズとなった分を記載し、

最終行のカスタマイズ費用合計の金額と一致させること。

※カスタマイズ費用には、値引き額は考慮せず、通常必要となる費用を記入すること。

常陸大宮市上下水道料金調定システム構築業務委託機能要件書

仕様No.	仕様区分	仕様項目	仕様内容	導入可否	カスタマイズ費用(円)
1	構築のポイント				
1-1-1		スケジュール管理	業務スケジュールが月単位、週単位、日別に確認できること。また、管理可能な項目は最低限以下の項目を管理できること。 <管理項目> 1) お客様との約束 2) 開栓/閉栓の予約 3) 名義や収納方法の変更 4) 誓約者の納入期限 (不履行直前データの確認) ※単に情報を表示するだけでなく、項目ごとかつ担当職員ごとに業務上連携したいプログラムを設定できること。(連携可能なプログラムが固定されていないこと)		
1-1-2			日別表示の場合一覧画面上に予定を表示。件数が多い場合も想定し絞込みができること。 <絞込み条件> 使用者名(カナ), 使用者名(漢字)等 ※前方一致, あいまい検索ができること。		
1-1-3			お客様との約束は、以下のように一覧画面を絞込み表示できること。 1) 対応状況: 予定のみ, 対応済み, 全件(初期表示は予定のみ) 2) 対応区分: 水道課で自由に設定可能な区分であること。 3) 担当者: 全件, 又は担当者で絞込みができること。 4) 種別: 滞納関連, 施設関連, その他 ※約束は滞納だけではないため種別ごとに管理できること。		
1-1-4			お客様との約束は、一覧画面から今日の予定を一覧表で即プレビュー, 印刷できること。 また、以下のような抽出条件が組込まれていること。 1) 日付: 範囲指定 2) 対応状況: 予定のみ, 対応済み, 全件(初期表示は予定のみ) 3) 対応区分: 水道課で自由に設定可能な区分 4) 担当者: 全件, 又は担当者指定 5) 種別: 滞納関連, 施設関連, その他		
1-1-5			開栓/閉栓の予定は、以下の一覧画面を絞込み表示できること。 1) 開閉区分: 開栓のみ, 閉栓のみ, 開閉栓(初期表示は開閉栓) 2) 受付状態: 受付のみ, 指針入力済み, 全件 3) 開閉栓者: 全件, 又は開閉栓を行った担当者で絞込みができること。 ※約束は滞納だけではないため種別ごとに管理できること。		
1-1-6			開栓/閉栓の予定は、一覧画面から今日の予定を一覧表で即プレビュー, 印刷できること。 また、以下のような抽出条件が組込まれていること。 1) 開閉栓日: 全件, 又は範囲指定 2) 施工業者: 全件, 又は施工業者指定。 3) 受付区分: 開栓, 閉栓 4) 受付状態: 受付のみ, 指針入力済み		
1-1-7			名義や収納方法変更の更新予定は、一覧画面を終了することなく異動入力(名義変更)画面を表示でき最終確認後に更新確定可能であること。 また、更新予定データを一括更新できること。		
1-1-8			誓約者の支払回数に対して納入期限日を超えようとしているデータを確認できること。 また、一覧画面から分納用納付書の発行画面を表示でき、即プレビュー, 印刷できること。		
1-1-9			スケジュールから個人の台帳へ連動できること。また、未納や約束を確認のうえ迅速に納付書発行ができること。		
1-1-10			約束日・対応日を超過しているデータが把握でき、かつそのデータが、いつ・誰に対するものなのかが即座に確認できる仕組みが組み込まれていること。 ※約束忘れ, 対応結果の更新漏れ防止策		
1-1-11			スケジュールは、月・週・日ごとに切替表示ができること。		
1-2-1		滞納整理計画/窓口領収	滞納者を抽出し給水停止の対象者をデータの的に管理できること。また、給水停止の対象者抽出機能は、以下の抽出ができること。 1) 通常滞納者に対する抽出 (誓約していない滞納者) 2) 誓約不履行者に対する抽出 (誓約中であり支払約束の納期を超過しているものとしていないもの)		
1-2-2			給水停止の対象データは、確定した時点の滞納状況とその後に入金状況を確認できること。 対象者の入金情報を日々確認できること。また、完納又は滞納額に対する入金の割合など一定条件をクリアしていれば、給水停止の対象から解除できること。 ※解除方法は、個別/一括どちらでも対応可能なこと。		
1-2-3			給水停止の訪問順をシステム的に変更できること。 ※住所順や検針順路順に自動で並び替えができ、その後職員判断で変更できること。		
1-2-4			給水停止予告通知書, 給水停止実施通知書は、対象者の内システム的な判断で給水停止を解除されていないデータのみ出力できること。 ※印刷順は、設定した訪問順で出力できること。		
1-2-5			現地で滞納状況や対応履歴などを確認/整理できる帳票が出力できること。 ※出力時点で、対象者として残っているデータのみ出力できること。 ※印刷順は、設定した訪問順で出力できること。		
1-2-6			窓口において料金収納と同時に、バーコードを利用し料金システムの未納状態を仮消し込み状態にできること。 督促状, 催告状, 給水停止関連帳票など、印刷時の引き抜き作業が極力必要なくなるシステム構成であること。		
1-2-7			窓口領収の方法は、職員が任意で領収対象年月と分納誓約の支払回数を指定できること。		

仕様No.	仕様区分	仕様項目	仕様内容	導入可否	カスタマイズ費用 (円)
1-2-8			窓口領収時に、お客様がバーコード付納付書を持参してきた場合、バーコードをタッチスキャナで読み込むことで対象施設、使用者を特定し、窓口領収画面を起動できること。		
1-2-9			窓口領収時に、お客様との約束データが存在する場合、窓口領収画面を閉じることなく約束内容を確認できること。また、対応結果と次回対応予定も即座に更新できる仕組みができていないこと。		
1-3-1		企業会計との整合性対策	調定漏れなどの理由により過去に遡って調定履歴を作成した場合、調定の計上日はあくまでも実際にデータを追加した当月の計上日で作成できること。		
1-3-2			調定履歴は、調定更正により増減が発生しても、当初計上した調定額と更正した増減額の内訳を管理できるシステム構成であること。 ※指定した日付時点の調定額を正しく再現できること。また、帳票上でも正しい結果を表示できること。		
1-3-3			調定簿は、指定した日付時点の調定累計額を出力できること。また、調定計上日の指定した範囲内で純粋に当初調定額(更正分を除く)として計上されたデータを出力できること。		
1-3-4			調定更正簿は、指定した日付の範囲内で更正された結果を日付ごとかつ更正理由・収納区分等で抽出できること。また、現年度分、過年度分に切り分けて出力できること。		
1-3-5			収納履歴は、日計に計上された合計額が充当・還付処理を行うことで当時の日計に計上された内訳の額に不整合が生じないこと。		
1-3-6			収納履歴を、誰かが誤って削除したような場合でも、削除した対象施設や更新者などをシステム更新ログ等で水道課の担当管理者のみ確認できること。		
1-3-7			充当・還付処理を確定後、系統的に削除処理が可能であること。運用上、削除前に確定前の状態を画面印刷等しておき削除後に出力しておいた画面印刷を基に処理前の状態に戻す作業などが生じることのないようなシステム構成であること。		
1-3-8			充当・還付一覧表を出力できること。出力結果は会計上必要となる仕訳に合せた条件で出力可能であり、会計担当者はこの結果を基に単純に起票すれば料金側と会計側で不整合が生じることのないようなシステム構成であること。		
1-3-9			毎月、その当月内に行われた料金システム上の取引の結果と、会計システム上での伝票起票結果が合っていることを月締め(チェック)対応できる帳票を出力できること。		
1-3-10			月締め(チェック)時には、調定に関する帳票を以下のように出力できること。 1) 指定した日付時点の調定累計額を調定年月別、収納方法ごとに確認できること。 2) 指定日付の範囲内で、日付ごとに調定更正した増減分を除く純粋な当初調定額の件数/金額を確認できること。また、その詳細情報として調定年月別や収納方法別にも集計できること。		
1-3-11			月締め(チェック)時には、収納に関する帳票を以下のように出力できること。 1) 指定日付の範囲内における収納額を日付ごとかつ現年度、過年度ごとに件数/金額の小計が確認でき、最終行ではその期間内の累計額が確認できること。 2) 指定日付の範囲内で日付ごとに件数/金額が確認できること。		
1-3-12			収納の月締め(チェック)に不整合が生じた場合、伝票起票時に印刷した会計伝票転記用を使用する収納簿や収納日計表を同一の抽出条件を指定後に再印刷することで、その差分を確実にチェックでき原因の特定ができること。		
1-3-13			月締め(チェック)時には、充当に関する帳票を以下のように出力できること。 1) 指定日付の範囲内における充当履歴を日付・理由等ごとに充当結果を確認できること。 2) 使用者情報、過誤納発生月、過誤納発生額、充当した未納年月(複数あり)が確認できること。		
1-3-14			充当の月締め(チェック)に不整合が生じた場合、伝票起票時に印刷した充当/還付一覧表を同一の抽出条件を指定後に再印刷することで、その差分を確実にチェックできること。(原因の特定)		
1-3-15			月締め(チェック)時には、還付に関する帳票を以下のように出力できること。 1) 指定日付の範囲内における還付履歴を日付・理由等ごとに使用者情報と併せて過誤納発生月に対する過誤納額をいくら還付したのが確認できること。 2) どの会計から還付したのかも確認できること。		
1-3-16			料金システムで行われた取引を、1つの帳票で全て出力できること。 ※計上日ごとに調定、調定更正、収納、振替のあった全てのデータについて、伝票起票する単位ごとに集計結果を確認できること。 ※この時、現年度分と過年度分の取引を分けて集計できること。		
1-3-17			料金システムで行われた調定・収納情報を会計システムへ連動できること。		
1-4-1		検針同時納入通知書発行等	検針時に、検針業務用携帯型プリンタを使用し、現地で納入通知書を発行できること。		
1-4-2			現地発行する納入通知書には、バーコード(GS1-128)が印字できること。		
1-4-3			現地発行する納入通知書には、ゆうちょの〇公にも対応できること。		
1-4-4			携帯型プリンタを採用することで、検針時に以下の帳票を印刷できること。 1) お知らせ票 2) 口座振替済通知書 3) 納入通知書 4) 口座振替推奨のお知らせ		
1-4-5			携帯型プリンタを採用することで、検針時に以下の帳票を任意で印刷できること。 1) 使用水量増大のお知らせ 2) 検針不能のお知らせ 3) 検針メモ 4) 検針報告書 5) メーター交換のお知らせ		
1-4-6			(No.1-4-4, 5)の帳票印刷時には、以下のような切替え表示ができること。 1) 口座制と納付制の違いにより、納期限と口座振替日文言を切替え表示 2) 口座制の場合、口座振替不能時には口座振替済通知書印字欄を空白で表示 3) 納付制の場合、口座振替済通知書印字欄には口座振替推奨のお知らせを印刷		

仕様№	仕様区分	仕様項目	仕様内容	導入可否	カスタマイズ費用 (円)
2	システム共通仕様				
2-1-1			メニュー構成や連携するプログラムの設定は、職員ごとに自由に設定できること。 ※導入後に、操作的な慣れた時点で個人の使い勝手を向上するためにカスタマイズが必要になるようなことがないこと。		
2-1-2			日付入力時、カレンダーより指定した日付を設定できること。		
2-1-3			数値・金額の入力時、電卓より計算した結果を入力できること。		
2-1-4			保存、削除、印刷、終了など画面に配置されている基本ボタンの操作は、「ファンクションキー」による操作ができること。		
2-1-5			入力項目は、必須項目とそうでない項目では色彩表示等で視覚的に判断できること。また、必須項目が入力されていない場合は、保存時にメッセージ表示のうえ更新できないこと。		
2-1-6			フリガナを設定する項目については、名前を入力すると自動でフリガナが設定されること。		
2-1-7			検索画面で抽出した結果(一覧データ)は、EXCEL出力できること。		
2-1-8			各種プログラムのタイトル名・画面・帳票等は、水道課の指定する文言に任意設定できること。		
2-1-9			帳票の並び順は、帳票に表示されているデータであれば職員が指定する任意の並び順に変更できること。また、設定は複数登録でき画面上で都度変更できること。		
2-1-10			全ての帳票は、直接印刷、プレビュー、EXCEL出力、PDF出力できること。		
2-1-11			帳票は、プレビュー状態で検索ができること。		
2-1-12			帳票は、同一クライアント上から複数起動(直接印刷、プレビュー)できること。		
2-1-13			画面は、同一クライアント上から複数起動できること。 ※複数起動可能な画面が問合せのみなど限定されていないこと。		
2-1-14			一度印刷実行した帳票は、同じものを再印刷できること。		
3	各種設定と履歴情報				
3-1-1			上下水道データを、区域ごとにデータ集計ができるシステムであること。		
3-1-2			アパート・マンション名、方書等情報をコード管理ができること。		
3-1-3			親から子に債権引き継ぎを行う場合や姓が変わる場合、また、口座情報や送付先情報が変わる場合でも、過去経緯を上書きすることなく同一の債権者コードとして枝番管理できること。		
3-1-4			1つの債権者コードと複数の枝番管理を行うことで、市内で複数施設にまたがる使用履歴を検索できるシステムであること。		
3-1-5			施設情報の編集時に、住所マスタや方書マスタを追加/編集必要な場合は、編集集中の画面上から追加/編集画面を直接呼び出して作業が行えること。 ※一度編集集中の画面を終了しマスタ画面で直接編集後に再度施設情報の編集画面起動して入力し直すような手間のかからないシステムであること。		
3-1-6			送付先情報の入力は、日本郵便の提供する郵便番号データを活用するなどの工夫により入力作業を軽減できること。		
3-1-7			支払方法の設定は、過去履歴で使用された支払方法を一覧画面で確認できること。また、選択した支払方法を設定できること。 ※同一施設内の履歴だけでなく、過去その債権者が使用した支払方法を一覧画面から選択できること。		
3-1-8			検針時に検針機器で得た以下の情報は、履歴情報として管理できること。また、問合せ画面から当時の結果を閲覧できること。 1)お知らせ票発行した/しない 2)現地納付書発行した/しない 3)検針異常区分(多い、少ない、一回りなど) 4)認定検針区分 5)指針訂正理由(検針後に指針訂正した場合など) 6)検針員から水道課へのメッセージ		
3-1-9			収納履歴は、保存可能な履歴数が10件以内などの条件がなく、最低でも99回の履歴データを作成できること。		
4	問合せ				
4-1-1		検索機能	＜通常問合せ対応時＞ 指定可能な抽出条件は、「お客様番号/使用者カナ/使用者電話番号/使用場所/使用場所方書/送付先/メータ番号」等が指定できること。また、文字列の検索項目については「前方一致/あいまい」による検索が可能であること。		
4-1-2			「施設最新情報」で検索するか「実績情報」で検索するかが指定できること。		
4-1-3			使用者カナ検索については、濁音・半濁音・拗音・促音を混在しても検索可能であること。		
4-1-4			検索した施設を照会履歴として一覧画面に表示できること。また、この一覧から問合せ画面に展開が可能なこと。		
4-1-5			過去の使用者情報からでも検索を行うことができること。施設の履歴を検索し、該当者が使用者であった時の情報を画面に表示できること。		
4-1-6			検索結果から特定の検索結果の問合せ画面を表示し、一操作で再度検索結果一覧の画面に戻る機能を有すること。		

仕様No.	仕様区分	仕様項目	仕様内容	導入可否	カスタマイズ費用 (円)
4-1-7			<p>&lt; 詳細条件指定時 &gt;  「問合せ」からの検索機能により探し出すことが出来なかった場合や、複数条件によりデータ抽出を行いたいときは、以下のようなさまざまな条件の組合せにより検索できること。  ※抽出条件は、「AND/OR」条件や「前方一致/あいまい」検索が可能であること。</p>		
4-1-8			<p>検索結果が膨大な数になる場合でも、全ての件数を「表示する」か「表示しない」かを、職員が任意で指定できること。</p>		
4-2-1		問合せ画面	<p>問合せ画面には、以下の情報を一画面で確認できること。  ※情報量が多いため、タブなどによる切替え表示など、表示手法は各社最適な提案をすること。  &lt;問合せ画面に必要な情報&gt;  1) 給水施設(所在地, 最新の使用者, 支払方法, 送付先, 検針設定, 水道/下水道)  2) 使用履歴(全履歴と使用者ごとの履歴を切替表示できること)  3) 異動履歴(開栓, 閉栓, 名義変更, メーター交換, 所有者変更)  4) 誓約履歴(誓約未納情報, 支払約束情報, 収納情報を, 取直し履歴を含め参照可)  5) 異動予約(同一施設内で, 複数の開栓, 閉栓, 名義変更の予約情報が確認可能)  6) 発行履歴(納付書再発行分, 督促状, 催告状, 給水停止関連帳票)  7) 対応履歴(お客様との約束と結果, 給水施設関連の予定と結果, その他の予定と結果を管理)  8) 未納情報(調定年月ごとの未納情報と誓約の支払回数ごとの未納情報を使用者ごとに表示)  9) 収納情報(お客様が領収した日付ごとに収納情報を表示, また, 充当/還付した結果も表示)</p>		
4-2-2			<p>問合せ画面に表示されているデータは、タブなどの切替え表示した画面ごとにEXCEL出力できること。</p>		
4-2-3			<p>収納状況を、お客様の領収した日付ごとに確認できること。なおコンビニや金融機関を含め領収した件数/金額が把握できること。</p>		
4-2-4			<p>「問合せ画面」表示中の使用者が、市内において他に使用していたかどうかを即確認できる仕組みが組込まれていること。</p>		
4-2-5			<p>各種プログラムとの連携履歴編集画面や収納・調定修正画面, また, 対応履歴の入力画面など, さまざまなプログラムとの連携機能が職員ごとに設定できること。  ※他のプログラムに連携し, お客様番号や個人コード, 調定年月などの条件を連携先のプログラム側に引継ぐことができること。</p>		
5	検針業務				
5-1-1		検針処理	<p>住民へ周知するための「お知らせ文言」を選択できること。また, 追加・編集もできること。</p>		
5-1-2			<p>検針機器上で指針入力することにより, 料金, 使用水量の算定は, 以下の条例に基づき料金計算結果を算定できること。  1) 常陸大宮市水道事業給水条例  また, その他運用上必要となる特殊計算にも対応できること。</p>		
5-1-3			<p>調定計上前に, 再検針した結果を理由も含め訂正できること。また, 訂正結果から料金も再計算されること。  ※検針のお知らせ票発行時の請求金額と訂正後の金額に相違が発生した場合, チェックリストで確認対象として出力されること。</p>		
5-1-4			<p>検針結果の取込みは, 既に受信しているデータが存在する場合の取込み方として, 以下のような取込みができること。  ※検針結果の途中吸上げを行った場合に必要。  1. 上書きしない  2. 無条件に上書きする  3. 検針日が新しければ上書きする</p>		
5-1-5			<p>検針員へ特定の施設に対する検針時の「指示事項」について, 料金システム上で設定した文言をその施設を表示しようとした場合, 自動でポップアップ画面を表示し検針員が確認できること。  &lt;例&gt; 東側に隣接する〇〇宅(息子夫婦の家) 玄関先のポストへ必ず投函すること。  ※文字数は, 半角80文字/全角40文字は入力できること。</p>		
5-1-6			<p>特定の施設に対して「注意事項」を設定できること。  &lt;例&gt; 屋外犬・蜂の巣など</p>		
5-1-7			<p>メータの位置が, 家や建物を中心にした場合どの辺りに設置されているのか位置関係を視覚的に確認できること。  また, その位置は検針員が自ら設定位置を編集することが可能でかつ料金システム側にも反映できること。</p>		
5-1-8			<p>検針順序を検針機器上で, 直接検針員が変更できること。また, 変更した結果は料金システム側にも反映できること。</p>		
5-1-9			<p>アパートなどで, 全ての部屋数分の検針を完了させた後に, 後から一括でお知らせ票を印刷→投函できること。</p>		
5-1-10			<p>検針員Aの体調が悪くなった場合, 検針途中であっても検針機器のデータを作成し直すことなく検針員Bの応援検針ができること。  ※検針した結果は, それぞれ検針員Aが行ったものと検針員Bが行ったことが検針機器上で判断でき, かつ料金システムへ実績として履歴更新されること。</p>		
5-1-11			<p>バッテリーの残量が視覚的に画面上で確認できること。</p>		
5-1-12			<p>検針結果をプリンタから検針済一覧表, 未検針一覧表として出力できること。</p>		
5-1-13			<p>検針順序の設定は, 新規施設を登録する画面から対象の検針員と検針地区に設定されている順序を一覧表示させ, その中のどこに順序設定すべきかを判断でき, かつ簡単に順序設定が行えること。  ※順序を管理するためのコードや番号を採番する必要がある場合, 自動で値を採番し設定できること。  ※一度登録した後でも編集作業ができること。</p>		

仕様No.	仕様区分	仕様項目	仕様内容	導入可否	カスタマイズ費用 (円)
5-1-14			料金システム上に、検針順序編集用の画面が用意されていること。 ※編集は、複数の施設の順序を一括で簡単に変更できること。 ※1件ずつしか変更できない仕様ではないこと。また、ピンポイントに複数の施設が選択でき、どこに移動させるかも簡単に設定ができること。 ※変更は、保存＝確定ではなく、変更結果を仮に保存しておき最終確認後に本データに更新されるような仕組みであること。		
5-1-15			検針データ受信後、再検針対象施設のチェックが行えること。 チェック結果を画面一覧に表示させ、選択中の対象データを再検針すべきか判断するために問合せ画面を連動起動。1件ずつ使用履歴や対応履歴などを確認のうえ、最終的に再検針対象としてチェックした施設のみ再検針用帳票を印刷できること。 ※再検針用帳票には、検針時の異常区分や認定検針理由、その他検針員からお客様へのメッセージなども表示されていること。		
5-1-16			再検針対象施設のチェック結果は、チェックリストとして帳票が印刷できること。また、EXCEL出力もできること。		
5-2-1		検針用帳票	再検針対象データを、以下のような条件を基に抽出しチェックリストを出力できること。また、チェック項目は保存でき、いつでも呼び出して使用可能なこと。 <検索条件> 検針員 検針地区 検針漏れ 指針訂正 認定検針 検針員から水道課へのメッセージ お知らせ票未発行 別途計算 メーター一回転 増量(使用量を範囲指定後、増加率や〇m3以上を指定可能) 減量(使用量を範囲指定後、減少率や〇m3以上を指定可能) 検針異常(使用量が多い、少ない、一回転等の判断値) など		
5-2-2			任意に指定した調定年月の範囲内で、〇回以上指針が動いていない施設や〇回以上認定検針を行っている施設を一覧表で出力できること。		
5-2-3			検針員ごとに検針を行った結果を、検針地区+口径ごとに「通常検針」「閉栓検針」を分けて出力できること。 ※必ず、地区と口径ごとに小計を表示し、最終行に総合計が表示されていること。		
5-2-4			特定の施設が任意指定できること。また、使用履歴(検針日・使用日数・指針・使用量・料金・認定検針理由)が一覧表示されるとともに、最新の施設情報が確認できる帳票が出力できること。		
5-2-5			検針員ごとに、検針順序を確認できる一覧表を出力できること。		
5-2-6			検針した結果を、検針員ごとに一覧表で確認できること。		
6	調定業務				
6-1-1		調定処理	調定データ作成に要する時間は、10,000件を2分以内で完了できること。		
6-1-2			料金、使用水量の算定は、以下の条例に基づき料金計算結果を算定できること。 1) 常陸大宮市水道事業給水条例 また、その他運用上必要となる特殊計算にも対応できること。 例) 認定率加算・控除設定		
6-1-3			検針機器から出力したお知らせ票の「請求予定金額」と実際に計上した「調定金額」が不一致だった場合、納付書発行前にエラーリスト等により即座に確認できる帳票を出力できること。		
6-1-4			調定計上前に訂正すべき誤りが発覚した場合、更正履歴を作成しないで調定を更正できること。 ※事実経緯として、調定更正履歴を作成すべきではない場合は任意で更正履歴作成する/しないを選択できること。		
6-1-5			更正履歴を削除できること。 ※削除することで、その他の収納履歴や充当還付履歴などの整合性が取れなくなるならないこと。		
6-1-6			無断使用が発覚した場合、過去に遡って調定履歴を職員が作成できること。 ※この時、調定更正(増)データとして履歴管理できること。		
6-1-7			調定更正入力画面上から、調定更正理由を追加/編集できること。		
6-1-8			調定履歴は、調定年月ごとにその内訳の全てを画面上で追加/編集/削除ができること。 ※職員が簡単にメンテナンス可能であること。		
6-1-9			任意に指定した日の口座振替結果の内、口座振替不能データを対象に再振替用口座依頼データを作成できること。 ※この時、無駄な振替データを作成しないように、口座振替不能理由を任意指定のうえデータ作成できること。		
6-1-10			過去の未納額について、債務者より「次回の口座振替で引き落ししてほしい」などの要望を受けた場合でも対応することが簡単にできること。		
6-1-11			口座振替依頼伝送用データは、作成対象の金融機関について今回作成される振替依頼件数と振替依頼金額の内訳を確認したうえで作成できること。		
6-1-12			再振替は、過去の振替不能分(未納分)を範囲指定して作成できること。 また、再振替対象とする振替不能理由を任意選択できること。		
6-2-1		調定用帳票	調定が漏れていないかの確認として、現在使用中で調定が存在しないデータをチェックリストに出力できること。		
6-2-2			同一施設・同一調定年月で、複数調定が作成されている施設を確認できること。		

仕様No.	仕様区分	仕様項目	仕様内容	導入可否	カスタマイズ費用 (円)
6-2-3			調定計上したデータが確認できること。 〈抽出条件〉 調定年月 範囲指定 会計区分 上水道・公共下水道等 ※上記に対して区域による範囲指定も可能とする。 収納区分 納付書、各金融機関、コンビニ等での範囲指定 ※過去に遡り「〇年〇月〇日現在」の件数・金額を表示できること。		
6-2-4			「調定年月別」「住所別」「収納区分別」に集計した結果を切替え表示できること。		
6-2-5			明細表(施設と使用者ごとの調定計上明細)が出力できるだけでなく、総括表として上記の集計単位ごとに小計・合計・総合計が表示できること。		
6-2-6			調定更正した履歴を一覧表で確認できること。 〈抽出条件〉 更正日 範囲指定 会計区分 上水道・公共下水道等 ※上記に対して区域による範囲指定も可能とする。 調定年月 現年度分と過年度分で更正した結果を別出力できること 更正理由 個別に複数指定可能(4つ以上)		
6-2-7			総括表として、日付ごとに現年度・過年度に対して増額分と減額分の小計と合計、最終行に指定された範囲の更正日に対する総合計が表示されること。		
6-3-1		納入通知書	調定後に口座振替以外の方に、納入通知書を発行できること。		
6-3-2			納入通知書は、シーラー用紙(3つ折り圧着用紙)に印刷すること。また、コンビニ収納も可能であること。		
6-3-3			納入通知書は、調定年月の範囲指定や定例分/精算分を切り分けて指定できること。		
6-3-4			納付書発行分など、納入方法を任意選択できること。		
6-3-5			特定の施設だけ指定できるよう、お客様番号で指定し、納付書が発行できること。		
6-3-6			再発行する場合、再発行日、納入期限日を任意指定できること。また、再発行の場合「再発行日」と帳票上に表示できること。		
6-3-7			窓口で領収する場合は、発行画面上から領収金額を任意指定できること。その計算方法は古い未納月から自動按分もできること。		
6-3-8			お客様が窓口で領収用の納付書を持参してきた場合、納付書のバーコードをタッチスキヤナで読み込むだけで対象者の問合せ画面を起動できること。		
6-4-1		口座振替用帳票	金融機関提出用の様式が出力できること。 単票(振替件数・金額を各金融機関ごとの合計を出力) 一覧表(各金融機関の支店ごとに内訳を出力)等。		
7	収納業務				
7-1-1		収納処理	収納は、バーコードによる消し込みができること。 ※収納消し込みはタッチスキヤナを使用。 ※30万円を超える納付書については、コンビニエンスストアでは取扱いができない旨の文言を、バーコード付近に印字すること。金額はシステムの設定で変更できること。		
7-1-2			何らかの原因によりバーコードの読み取りができなかった場合、不測の対処法としてバーコードの値を手入力することにより読み込みできること。		
7-1-3			消し込み処理の確定処理は、バーコードの読み込み直後に即保存した時点で確定するのではなく、仮に保存した消し込みデータは、正しく日計と件数/金額が合っているかの確認が行える帳票や、収納情報(日付・収納方法など)に間違いがあった場合は修正できる画面も用意されていること。 ※正しく日計が整理できたことを確認後に「本消し込み」処理が実行できること。		
7-1-4			コンビニ収納データの取り込み後、件数、金額が確認できること。		
7-1-5			コンビニ収納の速報、確報、速報取消しデータの内訳が確認できること。		
7-1-6			口座振替の場合は、ファームバンキングを使用したデータ伝送ができること。		
7-1-7			現行システムから発行された納付書の消し込みができること。		
7-1-8			クレジット収納に対応できること。		
7-2-1		収納帳票	日計の内訳を、一覧表等で確認できること。 〈抽出条件〉 領収/収納日 範囲指定 調定年月 範囲指定 収納方法 納付書・口座を範囲指定 集計方法 調定年月・収納方法・領収/収納日 ※一覧は、納付書・口座振替・コンビニ・集金など、収納の分類ごとに小計を表示し、最終行に総合計を表示できること。		
7-2-2			会計処理上の伝票処理を行うために、日付別・現年度・過年度等ごとに集計結果を確認できること。また、最終行には総合計も表示できること。 〈抽出条件〉 会計区分 水道・下水道・上下水道 ※会計区分ごとに区域の範囲指定もできること。 領収/収納日 範囲指定 調定年月 範囲指定 収納方法 納付書・口座を範囲指定 集計方法 調定年月・収納方法・領収/収納日		
7-2-3			年度・調定年月ごとに、調定額・収納額・充当額・還付額・過誤納額・未納額・収納率の内訳を、指定した日付時点の状態を正しく出力できるシステムであること。 ※月末時点や期末時点の日付を指定すれば会計上の同一日付時点における各累計額と一致しているかどうかをチェックできること。		

仕様№	仕様区分	仕様項目	仕様内容	導入可否	カスタマイズ費用 (円)
7-2-4			口座振替の結果から、振替済みの方に対して、口座振替済通知書を発行できること。 シーラー用紙(3つ折り圧着用紙)用の様式を提案できること。また、金融機関、発行日、口座振替日の指定や個別発行もできること。		
7-2-5			コンビニ収納データの取込履歴が確認できる一覧表を出力できること。また、全件、速報のみ、確報のみ、速報取消しデータの確認ができること。 ※特定のコンビニのみでも出力できること。		
7-2-6			収納情報は、領収/収納日ごとかつ納付書(窓口・支所)、コンビニ収納、口座振替などの支払方法ごとに集計結果を確認できる一覧表、統計等を出力できること。		
8	充当/還付業務				
8-1-1		充当/還付処理	過誤納額を未納月へ充当できること。 ※充当額を任意で変更できること。 ※充当日を任意で変更できること。		
8-1-2			過誤納額を次の調定計上後に即充当処理を行い、残った未納額で納入通知書の発行ができること。		
8-1-3			過誤納額を還付できること。 ※還付額を任意で変更できること。 ※還付日を任意で変更できること。 ※還付方法は、口座/現金の両方に対応していること。 ※口座の場合、現在使用している口座を選択できること。		
8-1-4			未納月への充当後に過誤納額が残った場合、同時に還付データも作成できること。 ※この場合、充当通知書と還付通知書を2枚出力できること。		
8-1-5			一度追加したデータを編集・削除できること。 ※編集・削除したとしても、履歴の整合性を正しく保てること。		
8-2-1		充当/還付用帳票	充当/還付した履歴を日付ごと一覧表を出力できること。 ※〇年〇月分にくら過誤納額があり、その内訳の金額が明記されていること。 また、充当をした〇年〇月分に、どれだけ充当したかの結果も金額の内訳を含め表示していること。 ※充当+還付、充当のみ、還付のみと表示の切替えもできること。		
8-2-2			登録後、即座に充当/還付通知書を発行日を指定のうえ出力できること。 また、シーラー用紙(3つ折り圧着用紙)に印刷できること。 1) 充当結果は、過誤納額に対してどの未納月にくら充当したかが分かる明細を表示できること。 2) 還付結果は、過誤納額をいくら還付したかが分かる明細を表示できること。 また口座へ還付した場合と現金で返した場合で、表示するデータを切替対応できること。		
9	滞納管理業務				
9-1-1		滞納処理	分納誓約締結まで対応不要な滞納者に対しては、毎月月末までに5,000円を窓口必ず支払う。・・・というような約束を管理できること。		
9-1-2			分納誓約データを作成できること。 ※同一人物が複数の施設で滞納していた場合など、複数の施設の未納を一つの分納誓約としてデータ作成ができること。		
9-1-3			分納誓約時に、滞納者と交わした「納入計画」についてもデータ登録できること。		
9-1-4			分納誓約自体が破綻したとしても、データ自体を削除せずに履歴として保存ができ、新たに新規誓約も登録できること。また、分納誓約を解除する場合「解除日」「解除理由」を登録することができること。 ※履歴は、前データ・次データと画面上で切替え表示ができ、その当時の誓約状況から収納状況まできちんと履歴管理できること。		
9-1-5			同一給水施設の複数使用者に対して、分納誓約データを1つしか保存できないようなシステム構成でないこと。		
9-1-6			分納誓約に対して、送付先を別設定できること。 ※分納用納付書の宛名面に表示する。		
9-1-7			親から子に世代交代した場合など、親が使用した履歴の未納分と子の未納分を同時に1つの分納誓約として作成できること。		
9-1-8			市内において、複数の施設にまたがり滞納が存在している場合も、同時に1つの分納誓約として作成できること。		
9-1-9			分納誓約用の納付書を、作成できること。 ※コンビニ収納可能なバーコードを印刷 ※支払回数ごとに請求明細を表示		
9-1-10			分納誓約用の納付書の入金は、バーコードシートリーダーで通常納付書と分納誓約用納付書を混在させたまま職員が意識することなく読み込めること。		
9-1-11			分納誓約用の納付書の入金、万が一バーコードの読み取りが不正であっても入金処理ができる画面が用意されていること。		
9-1-12			分納誓約の入金後、何らかの理由で入金を削除できる画面が用意されていること。		
9-1-13			定例分と分納誓約分を1枚の納付書で作成できること。		
9-2-1		滞納用帳票	納入期限日を超え、支払のない滞納者について督促状を発行できること。様式はシーラー用紙(3つ折り圧着用紙)とすること。また、発行日や納入期限日を指定できること。		
9-2-2			督促状の発行は、抽出したデータを画面一覧上に表示し、その内任意でチェックを付けたデータのみプレビュー・印刷できること。また、特定の施設だけ指定できるよう、お客様番号の指定もできること。		
9-2-3			督促状の発行は、システム設定として任意で督促状発行する/しないを設定できること。 ※未納があったとしても一覧表示対象外にできること。		

仕様No.	仕様区分	仕様項目	仕様内容	導入可否	カスタマイズ費用 (円)
9-2-4			催告状を発行できること。様式はシーラー用紙(3つ折り圧着用紙)とすること。		
9-2-5			滞納者リストは、滞納件数順、滞納累計額順、住所順、お客様番号順地等、出力順が任意指定できること。また、滞納件数や滞納金額を指定のうえデータ抽出できること。 ※全件、分納誓約者のみ、分納誓約者以外の条件を指定できること。		
9-2-6			会計上、月末や年度末の未納額が年度ごとに確認できること。また、その合計金額・明細等も確認できること。		
9-2-7			過去に遡り、指定した日付時点の件数・金額で表示できること。		
9-2-8			分納誓約データを作成後、即座に分納誓約書を出力できること。また、複数の施設に跨る未納に対して、一括して分納誓約をした場合でも、どの施設とどの施設に対して誓約したのか把握できるレイアウトであること。 ※最低でも3施設分は表示できること。		
9-2-9			分納誓約書には、滞納月の内訳が表示できること。また、約束した支払回数と納期を表示できること。更に収納状況チェックできる項目を設けていること。 ※水道課控えとお客様控えの2枚が印刷できること。また、水道課控え分には決裁欄が表示されていること。(最低4つは決裁欄を印刷、係長やグループ長などの名称は、組織変更があったとしても職員が簡単に設定可能であること。)		
9-2-10			分納誓約用の納付書が発行できること。様式はシーラー用紙(3つ折り圧着用紙)としコンビニ収納可能なバーコードが印字できること。また、発行日や納入期限日、再発行日を指定できること。		
9-2-11			分納誓約用の納付書は、以下のような条件指定ができること。 1) 納入方法を任意選択 2) 分納誓約で設定した支払額であっても領収額を支払回数の満額未満の額で任意指定可能 3) 特定の施設だけ指定できるよう、お客様番号指定のうえ発行可能 4) 住所を範囲指定したうえで抽出		
9-2-12			分納誓約を締結した履歴を一覧表で出力できること。また、誓約中/解除/破棄データを任意指定で出力できること。 1) 納付書発行分や集金分など、納入方法を任意選択 2) 施設を使用中か使用していないかで、出力する/しないを指定 3) 帳票上に、残未納件数・残誓約額(未納額)を表示		
9-2-13			分納誓約中データの内、誓約不履行になっているデータを一覧表で出力できること。 1) 納付書発行分や集金分など、納入方法を任意選択 2) 施設を使用中か使用していないかで、出力する/しないを指定 3) 帳票上に、不履行件数・不履行額(未納額)を表示		
10	統計資料				
10-1-1		使用量一覧表	各会計ごとに、〇月～〇月の範囲内でどれだけ使用量が発生したのかを確認できる帳票が出力できること。また、用途別、地区別、口径別、配水系統等に集計できること。 ※用途、地区、口径、配水系統等の範囲指定もできること。		
10-1-2			用途・地区・口径別、配水系統等に出力した内訳の件数・使用量計・料金(税抜)・料金(税込)・消費税・合計額が表示されていること。また、内訳に対する総合計も表示していること。		
10-2-1		段階別使用量一覧表	各会計ごとに、〇月～〇月の範囲内で、使用量を段階別にどれだけ発生したのかを確認できる帳票が出力できること。また、用途別、地区別、口径別、等に集計できること。		
10-2-2			用途・地区・口径別に、出力した内訳の件数・使用量計・料金(税抜)・料金(税込)・消費税・合計額が表示されていること。また、内訳に対する総合計も表示していること。		
10-2-3			使用量の段階別の範囲設定は、システムとしてマスタ設定できること。 ※職員が水量変更可能であること。		
10-2-4			排水形態別に集計できること。		
10-3-1		基本量・超過量用途別・口径別使用量一覧表	用途・口径別に〇月～〇月までの範囲指定で、基本量件数・基本水量・基本料金、超過量件数・超過水量・超過料金等の内訳を確認できる帳票が出力できること。		
10-3-2			用途・口径別の合計値が表示され、かつ範囲指定した調定年月の範囲に対する合計や総合計もきちんと出力されていること。		
10-3-3			段階別使用量の範囲指定は、自由に設定変更できること。		
10-4-1		施設件数一覧表	各会計ごとに、使用・休止・給停・廃止等の件数を確認できる帳票が出力できること。 用途別、地区別、口径別、等に集計できること。 ※用途、地区、口径、等の範囲指定もできること。		
11	異動業務				
11-1-1		開栓	開栓日を指定後に、異動の受付状況を一覧画面で確認できること。		
11-1-2			開栓入力時に、新たに開栓する使用者が既に個人マスタに登録されているかを使用者名(カナ・漢字)で検索できること。また、市内の別施設で使用していたかどうかを確認するため施設住所による検索も同一画面でできること。		
11-1-3			口座情報の登録方法は、これまで使用した口座が存在する場合、一覧画面から選択できること。		
11-1-4			開栓時の付帯情報として、用途に変更があった場合は、開栓入力画面上で変更でき、かつ確定更新処理と同時に最新のマスタが更新されること。 ※開栓後にマスタで編集するような2度手間のかかるシステムではないこと。 ※上記のようなパターンとして、その他「給水人口」や「メーター位置」、「方書情報」等も編集ができること。		
11-1-5			開栓時の使用者・支払情報・送付先情報も同一の画面上から編集作業ができること。		

仕様№	仕様区分	仕様項目	仕様内容	導入可否	カスタマイズ費用 (円)
11-1-6			閉栓日を指定後に、その日の異動の受付状況を一覧画面で確認できること。		
11-1-7			システムに指針・閉栓方法を入力後、使用日数が自動計算できること。また、料金計算結果も画面上に表示され確認できること。 ※料金計算結果は、手入力により任意指定もできること。		
11-1-8			閉栓後に送付先や支払方法が変わった場合、過去の未納を含め督促状、催告状、口座振替済通知書など、閉栓後に発送すべきものがある時は、過去履歴の送付先の設定についても受付時に設定ができること。また、閉栓確定処理を実行することで履歴側にも反映できること。		
11-2-1		名義変更	名義変更前の情報と後の情報を画面上で比較できること。 ※比較することにより、登録漏れていないかのチェックが簡単にできることになるため。		
11-3-1		その他	同一施設に対して、閉栓・閉栓を同時に複数受付ができること。 ※複数の受付が存在する場合、その状態が画面上で明らかに分かるような工夫がされていること。		
11-3-2			閉栓・閉栓・名義変更の受付データを一覧表示し、1件ずつ確認しながらデータの追加・編集・確定処理ができるようなプログラムが存在すること。 ※このとき、さまざまな条件で絞込む機能が実装されていること。		
11-4-1		開閉栓受付一覧表	開閉栓の受付情報を日付、時間ごとに確認できる一覧表を出力できること。 ※その日の予定表としても使用できること。 ※全件、閉栓のみ、開栓のみでも出力できること。		
11-5-1		閉栓伝票	閉栓時に、最新指針などを記述し持ち帰りデータ入力するための伝票を出力できること。 ※特定の施設だけ指定できるよう、お客様番号指定のうえ発行できること。		
11-6-1		閉栓伝票	閉栓時に、現地指針・閉栓方法を記述し持ち帰りデータ入力するための伝票を出力できること。 ※特定の施設だけ指定できるよう、お客様番号指定のうえ発行できること。		
11-7-1		異動件数及び取付件数集計表	メータ口径、メータ型式ごとに、日付の指定範囲内で新規・再開・再取付け・中止・給水停止・廃止・撤去・メーター交換と、異動した結果の集計件数が確認できる帳票を出力できること。		
11-7-2			現在取り付けられているメータの件数を、メータ口径、メータ型式ごとに、指定範囲日付の中で確認できる帳票が出力できること。		
12	メータ交換				
12-1-1		メータ交換入力	メータ交換を行った結果を入力する画面が存在すること。また、交換前と交換後の状態が把握できる画面構成であること。さらに、その他、交換日、交換理由、メータ位置情報も編集できること。		
12-1-2			EXCELに今回交換予定の一覧データを出力し、交換結果を登録後に、システム側でデータチェック作業を実行後に交換情報を一括更新できること。		
12-2-1		メータ交換用帳票	任意の範囲を指定し抽出後、対象者の情報が一覧表示できること。		
12-3-1		月別満期メータ取替予定表	検定満期の範囲を指定後、4月～3月と年度ごとにメータ口径別かつメータ型式ごとに、どれだけ交換予定件数があるかを確認できる帳票が出力できること。		
12-3-2			使用中、休止中、給水停止中等、状態ごとに施設を抽出対象し任意選択できること。		
12-3-3			抽出条件が複数年度にまたがる場合、最終ページにはその総合計値が表示されること。		
12-4-1		地区名別満期メータ取替予定表	地区ごとに、指定された検定満期において、メータ口径別かつメータ型式ごとに、どれだけ交換予定施設が存在するのかを確認できる一覧表が出力できること。		
12-4-2			使用中、休止中、給水停止中等、状態ごとに施設を抽出対象し任意選択できること。		
12-4-3			住所を範囲指定したうえで抽出できること。		
12-5-1		メータ交換のお知らせ	メータ交換を実施する予定施設に対して、交換することを事前通知できること。 また、抽出対象は、使用中、休止中、給水停止中と任意選択できること。 ※住所を範囲指定 ※検針地区を範囲指定 ※特定の施設だけ指定できるよう、お客様番号指定		
12-5-2			メータ交換理由を検定満期かそれ以外の理由かで出力する条件を指定できること。		
12-6-1		メータ交換伝票	メータ交換を実施する対象施設の一覧表と交換時に交換後の結果を記載する単票形式の帳票を出力できること。また、使用中、休止中、給水停止中と、いずれの状態の施設を抽出対象にするのかを任意選択できること。 ※検定満期を範囲指定 ※住所を範囲指定 ※検針地区を範囲指定 ※特定の施設だけ指定できるよう、お客様番号指定		
12-6-2			使用中、休止中、給水停止中等、状態ごとに施設を抽出対象し任意選択できること。		
12-6-3			検定満期以外の理由による交換理由も選択できること。		
12-6-4			メータ位置情報が表示されていること。		
12-6-5			メータ交換が完了した結果を通知できるように、様式の半分を通知用として切り離せるようなレイアウトになっていること。		
12-7-1		施工業者別メータ異動件数表	指定した異動日の範囲内で、施工業者別にメータ交換した結果を出力できること。		

仕様No.	仕様区分	仕様項目	仕様内容	導入可否	カスタマイズ費用 (円)
12-8-1		休止メータ一覧表	現在、休止中の施設に設置してあるメータ情報が確認できる一覧表が出力できること。 ※全件・休止中のみ・給水停止中のみが任意指定 ※住所を範囲指定		
13	年度末業務				
13-1-1		不納欠損処理	滞納月や納入期限日の範囲指定によりデータを抽出のうえ不納欠損処理ができること。 ※調定年月を範囲指定 ※納入期限日を範囲指定 ※不納欠損の理由を登録・編集可能		
13-1-2			特定の施設だけ処理する場合、お客様番号と使用者を指定できること。		
13-1-3			抽出したデータは画面上で一覧表示を行い、その内任意で出力する・しないを選択後に印刷できること。		
13-1-4			抽出したデータは画面上で一覧表示後、予算内に納まるように件数・金額を調整できるようになっていること。 ※対象としてチェックした件数・金額が画面上で確認しながら作業ができること。		
13-1-5			不納欠損確定後、何らかの理由により取消しを行う必要が出た場合は、取消し作業も職員が簡単に行える仕組みが実装されていること。		
13-1-6			不納欠損取消処理についても、特定の施設だけ指定できるよう、お客様番号指定のうえ発行できること。		
13-1-7			不納欠損後に請求行為を行うかどうかをシステム設定で選択できること。		
13-2-1		債権放棄処理	不納欠損後、債権自体を放棄(援用)する場合、システムの不納欠損後の別対応として債権放棄処理が実施できること。 ※調定年月を範囲指定 ※不納欠損日を範囲指定 ※債権放棄の理由を登録・編集可能		
13-2-2			特定の施設だけ処理する場合、お客様番号と使用者を指定できること。		
13-2-3			抽出したデータは画面上で一覧表示を行い、その内任意で出力する・しないを選択後に印刷できること。		
13-2-4			債権放棄処理確定後、何らかの理由により取消しを行う必要が出た場合は、取消し作業も職員が簡単に行える仕組みが実装されていること。		
13-3-1		不納欠損一覧表	不納欠損した結果を一覧表で出力できること。 ※調定年月を範囲指定 ※不能欠損日を範囲指定 ※不能欠損理由を理由別に範囲指定		
13-3-2			特定の施設だけ処理する場合、お客様番号と使用者を指定できること。		
13-3-3			表示項目には、税抜額、消費税額、税込額が表示され、かつそれぞれの合計額欄が設けられていること。		
13-4-1		債権放棄一覧表	債権放棄した結果を一覧表で出力できること。 ※債権放棄日を範囲指定 ※調定年月を範囲指定 ※債権放棄日を範囲指定 ※債権放棄理由を条件指定		
13-4-2			特定の施設だけ処理する場合、お客様番号と使用者を指定できること。		
14	施設情報				
14-1-1		新規施設作成	お客様番号は、自動及び手入力できること。		
14-1-2			お知らせ票、納付書が、検針機器で発行する・しないを設定できること。		
14-1-3			督促状、催告状を発行する・しないを設定できること。		
14-1-4			住所を設定する際に、新規で住所マスタを追加する必要がある場合は、新規施設の登録画面上から追加・編集画面を起動して編集できること。		
14-1-5			新規で送付先住所を設定する場合、全国郵便住所データを検索し該当の住所情報を選択すると自動で送付先情報が設定されること。 ※都道府県名は、リストと日本地図等から選択できること。 ※定期的に全国郵便住所データを更新できるメンテナンス用プログラムが用意されていること。		
14-1-6			方書を設定する際に、新規で方書マスタを追加する必要がある場合は、新規施設の登録画面上から追加・編集画面を起動して編集できること。		
14-1-7			新規施設登録時に、検針順路の設定ができること。また、この時順路番号について職員が意識することなくシステム側で自動採番(設定)されること。 ※検針地区を選択後に、該当する検針員の検針順路を画面一覧に表示させ、住所情報等確認しながら順路指定が可能であること。		
14-1-8			アパート、マンションなど、1つの住所に複数施設を作成する場合は、一度施設登録完了後に現在表示されているデータを流用(複写)したうえで次の施設データを作成できること。 ※概要としては、部屋番号だけ複写しないで直接入力すれば完了する仕組みとする。		
14-1-9			使用者、送付先情報に対する電話番号は、2つ以上登録可能であること。		
14-2-1		施設情報用帳票	現在登録されている施設情報を一覧表で出力できること。 ※出力項目としては、施設住所情報、現在の使用者名や支払情報、送付情報の他、使用、休止、用途区分や口径などの施設情報が表示され、かつ最新の指針情報などが表示されていること。		
				カスタマイズ費用 合計	